

# 政策推進プラン

(新・基本計画 第2次実施計画(2008~2011))

## 概要

平成19年11月  
総務企画局

プランの概要の趣旨と今後の進め方について

本プラン「概要」では、今後4年間に本市がめざす目標像、その実現に向けた取り組みの視点、特に力を入れていく分野・施策や政策目標ごとの施策体系等を示しています。

今後は、具体的な事業やその内容等について検討を進めるとともに、成果指標などについても整理し、平成19年度末頃に原案として公表します。

その後、パブリック・コメントを実施し、幅広く市民の皆様からご意見をいただきながら、プランを策定します。

< 目 次 >

【はじめに】福岡市 2011 グランドデザインの策定の趣旨

1 . 本市をめぐる社会状況変化 .....	1
2 . 政策推進プランの概要 .....	11
( 1 ) 策定の目的 .....	11
( 2 ) 取り組みの視点 .....	12
( 3 ) まちづくりの目標像と特に力を入れていく分野・施策 .....	13
( 4 ) 政策目標ごとの施策体系 .....	19
( 5 ) プランの進行管理 .....	28

## 【はじめに】～福岡市2011グランドデザインの策定の趣旨～

今、時代は大きな変革期にあります。アジアにおける大交流時代の到来、人口の減少や少子高齢化の進行、国における再生法制や地方分権改革、市民生活に直結する福祉や医療の制度改革の進展など、本市を取り巻く環境は大きく変化しています。

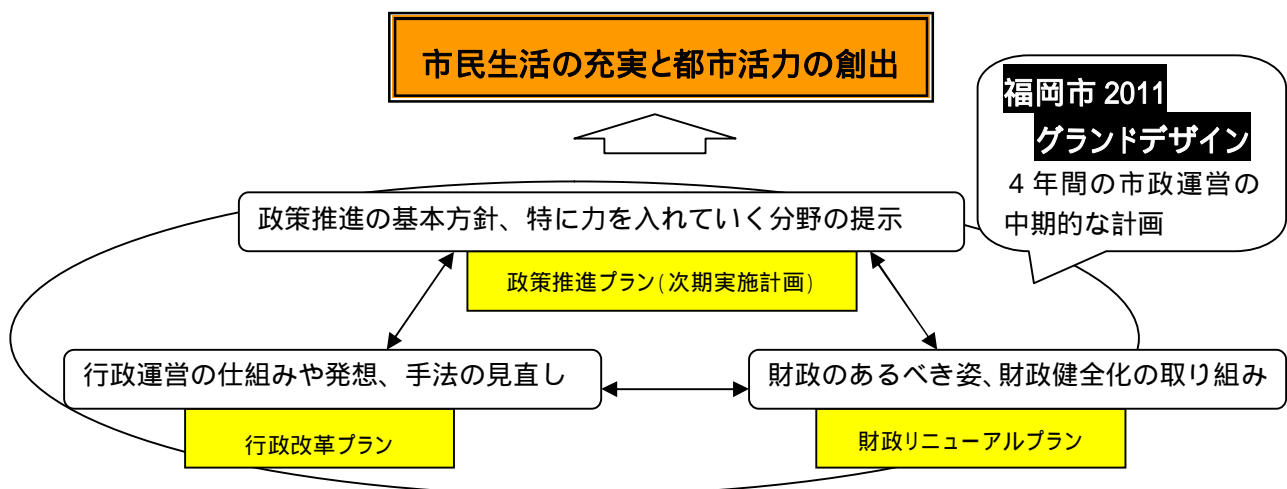
本市財政は、都市基盤の整備等に伴い市債残高が増加するとともに、国の交付税改革などにより財源が減少する中、社会保障費の増嵩に加え社会資本の大量更新期の到来などにより財政需要は増加し、今後とも極めて厳しい状況が続くと見込まれます。

本市は、長年の懸案であった、水道、下水道、道路、地下鉄などの都市基盤や文化、スポーツ施設などの社会資本について鋭意整備を進めてきた結果、住みやすく活力のある都市として一定の評価を得るに至りました。また、近年の市民ニーズは子育てや福祉、雇用の確保など市民生活に身近な課題に変化しているなど、市政運営は大きな転換期を迎えています。

このような状況変化に的確に対応していくためには、行財政改革の一層の強化や施策・事業の重点化や見直しによって所要の財源を確保し、市民生活の充実と都市活力の創出を図っていく必要があります。

このため、特に力を入れていく分野を示すなど政策推進の基本方針となる「政策推進プラン（次期実施計画）」、行政運営の仕組みや発想、手法の見直しの基本方針となる「行政改革プラン」、財政のあるべき姿や財政健全化の取り組みを示し、財政運営の指針となる「財政リニューアルプラン」が連動した「福岡市 2011 グランドデザイン」を策定するものです。

### 福岡市 2011 グランドデザインの全体像



## 1. 本市をめぐる社会状況変化

新・基本計画策定から5年が経過しており、社会環境は大きく変化しており、今後4年間の取り組みの方向を定めるにあたり、踏まえるべき本市をめぐる社会状況の変化を整理します。

### (1) 地方行財政の構造改革の時代

#### 地方分権改革

- ・ 第一期地方分権改革においては、平成12年4月に施行された地方分権一括法に基づき、国と地方の関係を対等なものとして位置づけ、これにより機関委任事務制度の廃止をはじめとする制度改革が行われました。
- ・ 国が構造改革の一環として進めてきた、「三位一体改革」においては、2004年（平成16年）度から2006年（平成18年）度までに、約4.7兆円の国庫補助負担金の改革が行われるとともに、約3兆円の国から地方への税源移譲及び交付税改革として約5.1兆円の削減が行われました。
- ・ また、基礎的地方公共団体である市町村の行政サービスを維持・向上させ、行政としての規模の拡大や効率化を図る観点から、平成の大合併が進められました。
- ・ 2007年（平成19年）4月には、地方分権改革推進法が施行され、国は、国が本来果たすべき役割を重点的に担い、住民に身近な行政はできる限り地方公共団体にゆだねることを基本として、地方公共団体への権限移譲の推進等の措置を講ずることとしています。

#### 地方交付税改革

- ・ 地方公共団体にとって貴重な財源である地方交付税ですが、国は、地方交付税に依存しない不交付団体の増加を目指し、地方公務員人件費の削減や地方の投資的経費の抑制など、地方歳出の削減に取り組む方針であり、今後とも、地方交付税等の一般財源総額は抑制基調で推移することが想定されます。
- ・ また、バブル崩壊後は国税も地方税も減収となり、国の交付税特別会計で借入金を負って財源を調達した時期が続いた結果、交付税特別会計における債務は2006年（平成18年）度末において52兆円を超えるほどになりました。この債務のうち、約3分の2が地方負担分となっていますが、2006年（平成18年）度補正予算から償還が開始され、今後、地方に配分される交付税総額からは、この償還費が毎年度確実に引き去られることとなります。

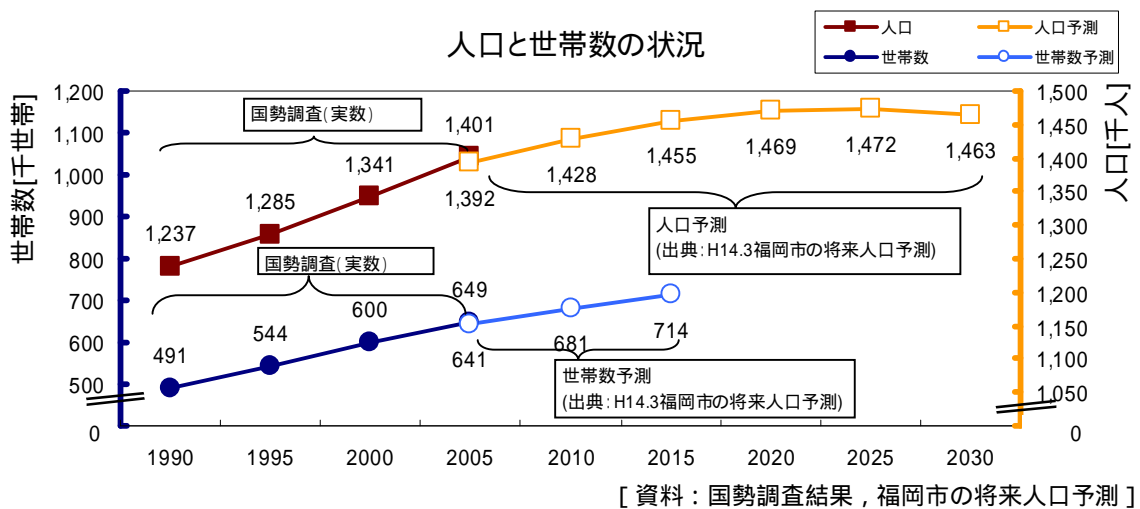
#### 社会保障制度の変更

- ・ 一方、福祉や医療などの社会保障について、国は、制度自体の持続可能性・安定性を確保していくことが何より重要との観点から、セーフティネットとして求められる水準に配慮しつつ、給付の伸びを抑制していく方針ですが、地方公共団体では、激変緩和のため独自の対応を検討する必要性に迫られるとともに、今後高齢者の絶対数の増加に伴い、社会保障関係に要する経費の増加は避けられなくなっています。

- ・ このように、地方公共団体を取り巻く状況は大きく変化しており、2010年（平成22年）には国が地方分権一括法（仮称）の成立を予定するなど、第二期地方分権改革の議論が始まったことに加え、道州制導入についての検討も行われるなど、地方分権の議論は今後さらに進んでいくことが予想されるため、地方公共団体にはこれまで以上に高い自治能力が求められることとなります。

## （2）140万人を超えた人口と変化する都市圏との人口移動

- ・ 国内の人口は2004年（平成16年）をピークに減少の局面に入り、九州・山口の総人口も2005年（平成17年）に1980年（昭和55年）以来、35年ぶりに減少しました。
- ・ 一方、福岡都市圏の人口は230万人を突破し、増加率は減少しつつも総人口は依然として増加が続いています。
- ・ 本市の総人口は140万人を突破するとともに、人口増加率では近年はじめて福岡都市圏を上回りました。



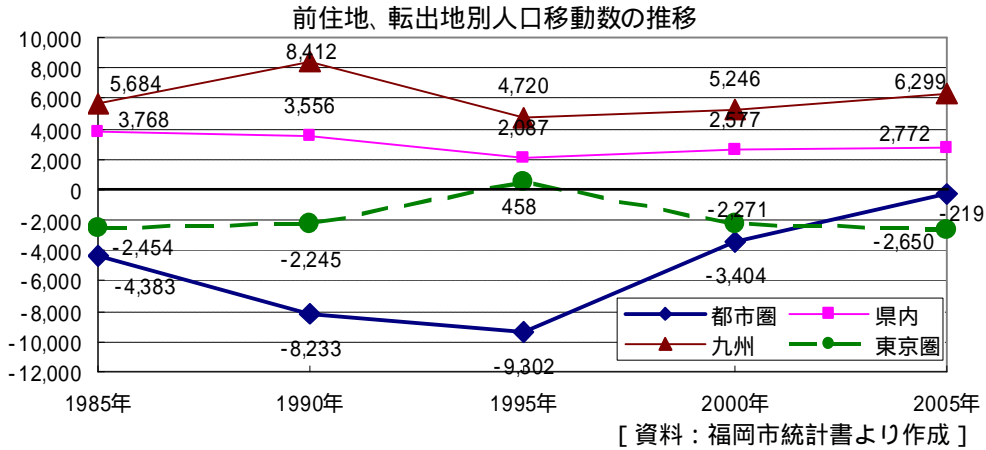
### 国勢調査結果における人口の推移

[単位：千人、下段は5年分の増加率]

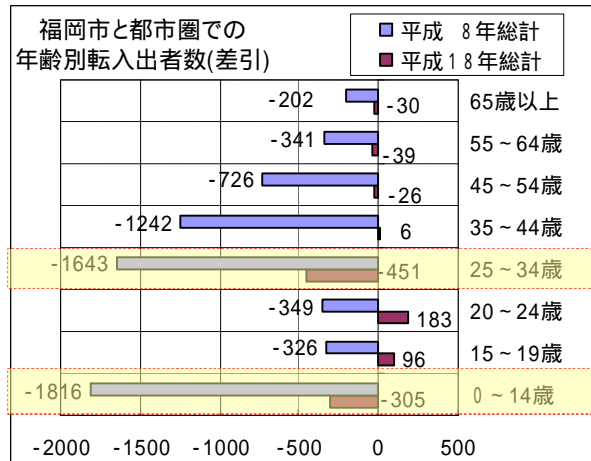
	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
九州・山口	16,091	16,253	16,292	16,207
	0.2%	1.0%	0.2%	0.5%
福岡都市圏 (本市除く)	751	834	893	922
	9.4%	11.0%	7.1%	3.2%
福岡市	1,237	1,285	1,341	1,401
	6.6%	3.9%	4.4%	4.5%

[資料：国勢調査結果]

- ・ 人口移動（社会動態）は、九州各地から本市へ人口が流入し、本市から福岡都市圏や東京圏へ流出する流出超過の構造があります。しかし、近年、本市から福岡都市圏への流出超過の傾向が減少しており、1995年（平成7年）の国勢調査では約9千人が本市から福岡都市圏へ転出していましたが、2005年（平成17年）には転出と転入の人数がほぼ拮抗しています。



- 本市と福岡都市圏の間の転出入者数（差引）を年齢別にみると、1996年（平成8年）には14歳以下と25歳から34歳の年齢で転出超過が顕著でしたが、2006年（平成18年）ではほぼ拮抗しており、本市居住のファミリー世帯が福岡都市圏へ転出していた傾向に変化が起きている。



- 1996年（平成8年）と2006年（平成18年）の校区毎の人口増減をみると、都心部やその周辺部では大幅に増加している校区がある一方で、離島地区の校区や、農林漁業集落地域の校区、大規模団地がある校区において著しい減少がみられます。

人口増減	人口増加の上位5校区(過去10年間)			人口減少の上位5校区(過去10年間)				
	1位	西区	金武校区	+55.3%	1位	東区	城浜校区	24.8%
	2位	博多区	東住吉校区	+51.4%	2位	西区	玄界校区	24.5%
	3位	博多区	宮竹校区	+48.7%	3位	東区	千早校区	18.4%
	4位	博多区	美野島校区	+45.4%	4位	東区	志賀島校区	15.5%
	5位	中央区	警固校区	+44.4%	5位	西区	小呂校区	14.8%

H18年9月末とH8年9月末との比較(住民基本台帳ベース)

高齢化	高齢者人口割合が小さい上位5校区			高齢者人口割合が大きい上位5校区				
	1位	東区	香陵校区	7.6%	1位	早良区	曲淵校区	36.5%
	2位	早良区	百道浜校区	7.8%	2位	西区	能古校区	32.1%
	3位	東区	松島校区	9.3%	3位	東区	志賀島校区	30.7%
	4位	西区	愛宕浜校区	9.9%	4位	西区	今津校区	30.2%
	5位	早良区	原北校区	9.9%	5位	西区	玄界校区	30.0%

H18年9月末(住民基本台帳ベース)

[資料：福岡市総務企画局統計調査課資料より作成]

### (3) 市政に関する市民意識の変化

- ・ 市政に関する市民の意識調査結果の推移をみると、市民が本市に対して望む行政サービスの内容が社会基盤の整備から子育てや福祉など身の回りの課題へ変化しているのが分かります。
- ・ 1985年(昭和60年)から1994年(平成6年)までの「市政に関する意識調査」では、「下水道の整備」や「主要道路の整備」など、インフラ整備への要望が上位にありましたが、2006年(平成18年)の「福岡市政に関する信頼度調査」では、重要度が高いにもかかわらず不足感も強い取り組みとして、「高齢者・障がい者への福祉の充実」、「子どもを生みやすい環境づくり」など、市民の身の回りの課題に対する施策が上位を占めており、市民は市政に対して暮らしの充実を求めています。

市政に関する意識調査  
短期要望(上位)

	1位	2位	3位
1988年	駐車対策	主要道路の整備	下水道の整備
1994年	駐車対策	ごみ処理	主要道路の整備
1999年	水資源開発	雇用の安定など労働対策	リサイクルなど循環型社会の推進

資料：「市政に関する意識調査」

「重要度が高く、不足感も強い」主な項目

	主な項目
2006年	市の借金を抑制するなど、財政の健全化を進める 高齢者・心身障がい者(児)への福祉を充実させる 子どもを生みやすい環境づくりを進める 雇用の安定、促進などの労働対策を進める 大きな事業のねらい・費用・進行状況について、検証・見直しを行う

資料：「福岡市政に関する信頼度調査」

### (4) 子どもを取り巻く状況

- ・ 本市では、全国同様、晩婚化・未婚化などの影響から少子化が進行しており、合計特殊出生率も年々低下しています。

福岡市と全国の合計特殊出生率

区分	合計特殊出生率	
	福岡市	全国
昭和60年	1.66	1.76
平成2年	1.41	1.54
平成7年	1.28	1.42
平成12年	1.17	1.36
平成17年	1.08	1.26

資料：福岡市、厚生労働省「人口動態統計」

注：合計特殊出生率：1人の女性が仮にその年の出産の傾向どおりに一生の間に生むとしたときの子どもの平均数。  
現人口を維持するのに必要な水準は、2.08

- ・ 「団塊ジュニア」と呼ばれる人口の多い世代が30代中盤の出産期にある今、全国的に子ども施策の充実が急務であると言われていています。なお、2006年(平成18年)の出生数は、全国的に増加に転じていますが、経済の好転や「団塊ジュニア」の出産期などによる一時的な増加ではないかという見方もあります。
- ・ 本市は、他都市に比べ人口に占める若い世代の割合が大きく、少子化の流れを変える潜在能



力が高いと考えられます。因みに、2006年（平成18年）には約1万3千人が本市で生まれており、九州で生まれた子どもの数（約13万人）の約1割にあたり、長崎県（約1万2千人）、大分県（約1万人）、宮崎県（約1万人）、佐賀県（約7千人）の各県で生まれた子どもの数を上回っています。

- 本市でも、安心して子どもを産み育てられる環境や、子どもが生き生きと育つ環境の整備が一層重要になっています。

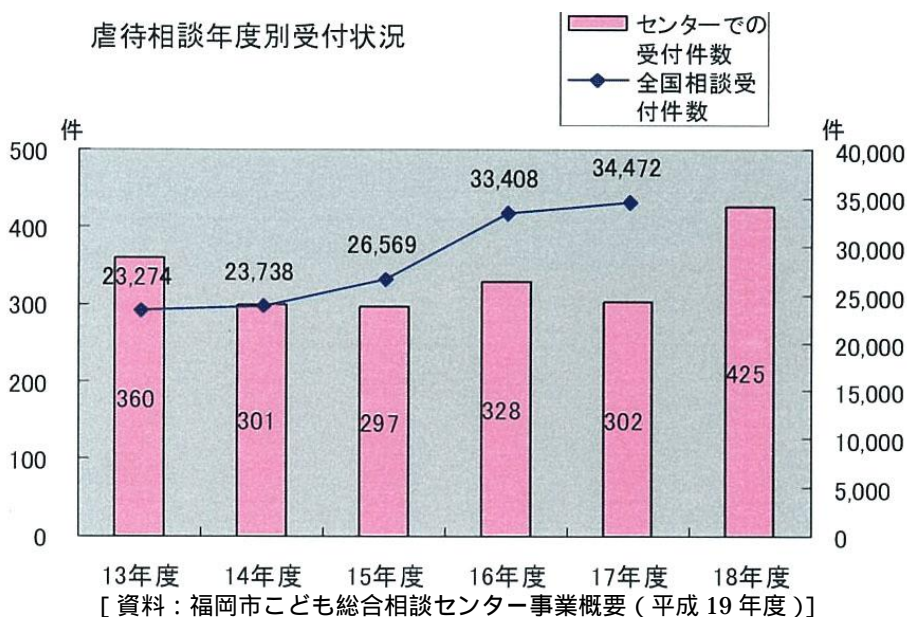
福岡市と全国の出生数

区分	出生数		
	福岡市	九州	全国
平成11年	12,960	140,458	1,177,669
平成12年	13,133	142,387	1,190,547
平成13年	13,202	141,305	1,170,662
平成14年	13,122	138,151	1,153,855
平成15年	13,082	134,514	1,123,610
平成16年	12,852	134,098	1,110,721
平成17年	12,477	129,189	1,062,530
平成18年	13,222	133,363	1,092,674

資料：厚生労働省「人口動態統計」

- また、虐待やいじめなどの相談件数は福岡市でも増加しています。2006年度（平成18年度）の児童虐待の面接相談件数は425件で、前年度と比較すると約1.4倍となっています。

虐待相談年度別受付状況



- 更に、福岡県の10代の少年人口1,000人あたりの刑法犯少年の占める割合は、2006年（平成18年）が16.7人で、4年連続全国ワースト1となっており、子どもを取り巻く良好な環境づくりが求められています。

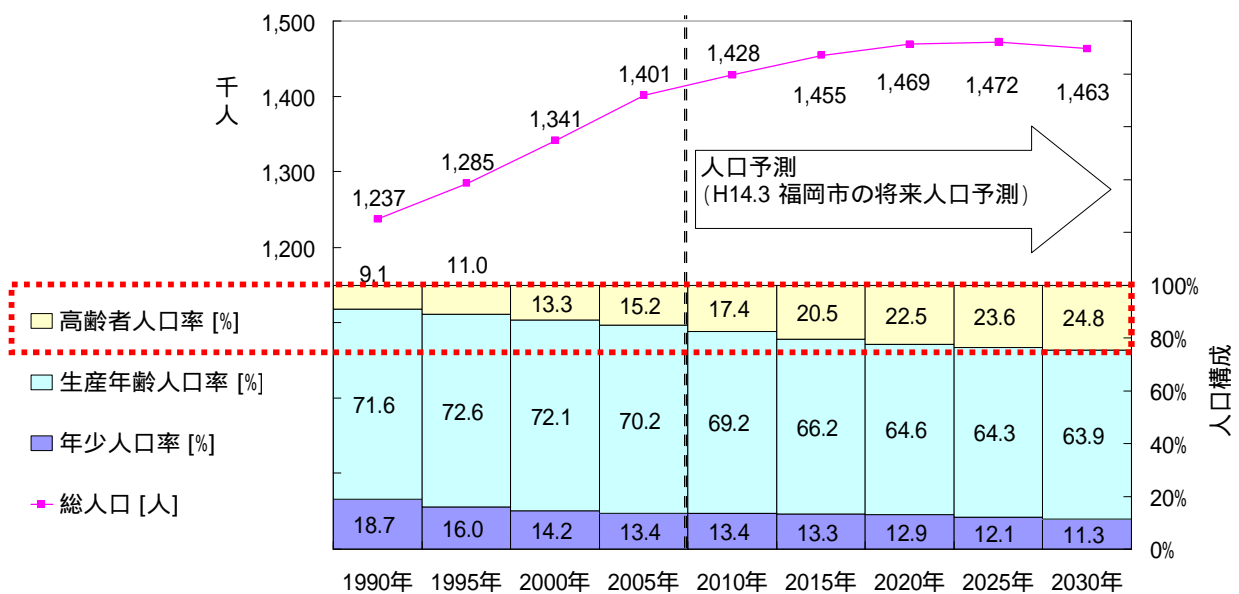
### （5）今後10年間で急激に増加し始める高齢者

- 2005年（平成17年）の国勢調査結果によると、本市の2005年（平成17年）の高齢者人口（65歳以上）は約21万人で、総人口の15.2%を占めており、10年間で4.2%増加しています。全国の高齢者の総人口に占める割合の20.1%と比べると低いものの高齢化は着実に進んでいます。



- 本市では、65歳以上の高齢者人口約21万人に対し、60～64歳が約8万人、55～59歳の人口が約10万人であり、今後10年間で大幅に高齢者が増加することが見込まれており、地域での見守りなどの様々な課題が顕在化しつつあります。このため、今後、本格的な高齢化社会に向けた準備を着実に進めていく必要があります。
- 都道府県別1人当たりの老人医療費では、福岡県は近年非常に高い状況が続いていますが、本市は福岡県内でも高い状況にあることに加え、40歳～64歳の中高年層の死亡率も高い状況にあります。食生活や運動習慣の改善などによる生活習慣病の予防や介護予防など、健康づくりにつながる予防を重視した施策が必要となっています。

### ◆福岡市の人口推移と人口構造の変化



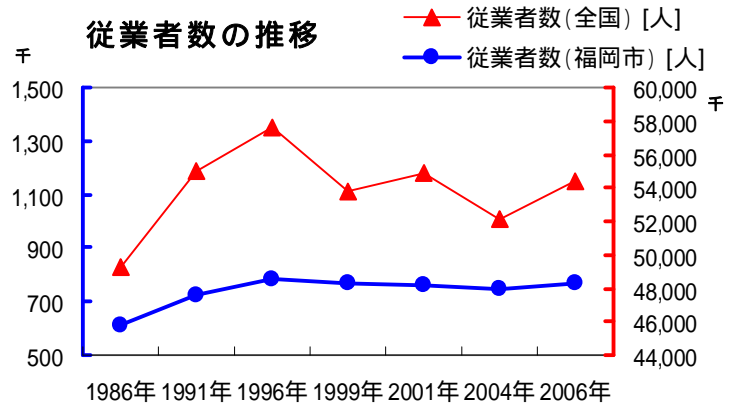
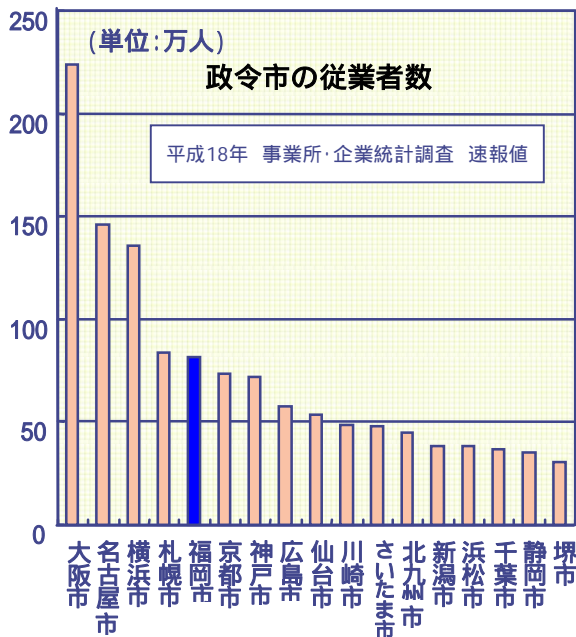
#### 全国の人口の推移

		2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年
全国の高齢者人口率	[%]	20.1	23.1	26.9	29.2	30.5	31.8
全国の生産年齢人口率	[%]	65.8	63.9	61.2	60.0	59.5	58.5
全国の年少人口率	[%]	13.7	13.0	11.8	10.8	10.0	9.7

[ 資料：国勢調査結果、福岡市の将来人口予測、国立社会保障・人口問題研究所資料より作成 ]

### (6) 産業構造の変化

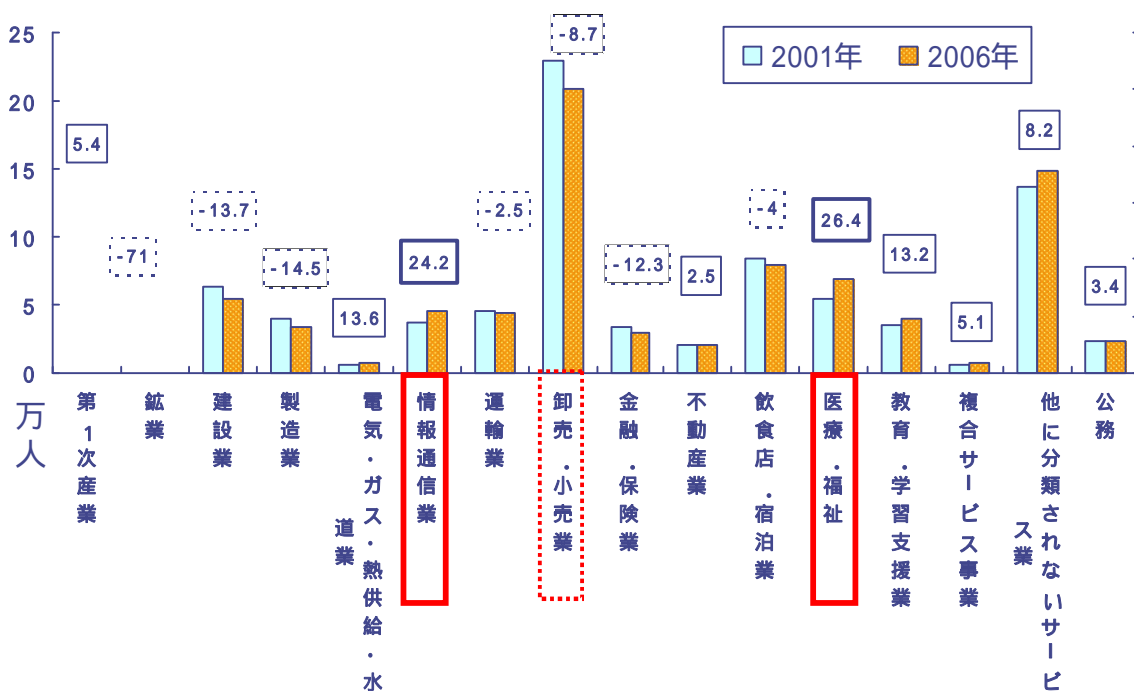
- 本市の従業者数は、2006年（平成18年）に約81万人であり、政令市で第5位となっています。全国的に1996年（平成8年）以降、従業者数は減少傾向にありますが、本市は比較的堅調に推移しています。



[資料：総務省 事業所・企業統計調査より作成]

- しかしながら、本市の産業別の従業者数は、2001年（平成13年）以降の5年で医療・福祉、情報通信業が増加する一方で、高度成長期から長く本市の基幹産業であった卸売業・小売業は事業所、従業員数ともに減少しています。物流を含めた卸売業の郊外化や大型商業施設の郊外進出が進んだ影響があると考えられます。
- 今後は、これらの環境変化を踏まえ、本市の特性を活かした集客産業や、九州に進出する製造業と連携したIT関連産業など、本市の活力を牽引する新たな産業振興が必要と考えられます。

本市における産業別従業者数の推移と増加率（％）



[資料：平成18年事業所・企業統計調査速報値]

## (7) 公共施設の更新時期の到来

- 本市の人口は、1960～70年（昭和35～45年）代頃から急増し、市営の大型団地の大量供給や小学校の建設ラッシュ、民間においては、都心のビル建設などが進みました。また、政令市に昇格した1972年（昭和47年）以降、集中的な都市基盤の整備が始まり、これら道路・橋梁・建物などの社会資本の一部がこれから更新時期を迎えます。
- このため、これまでに蓄積された社会資本をさらに長期にわたって活用するための管理方法や更新システムの構築を行い、将来世代に資産として承継していく必要があります。

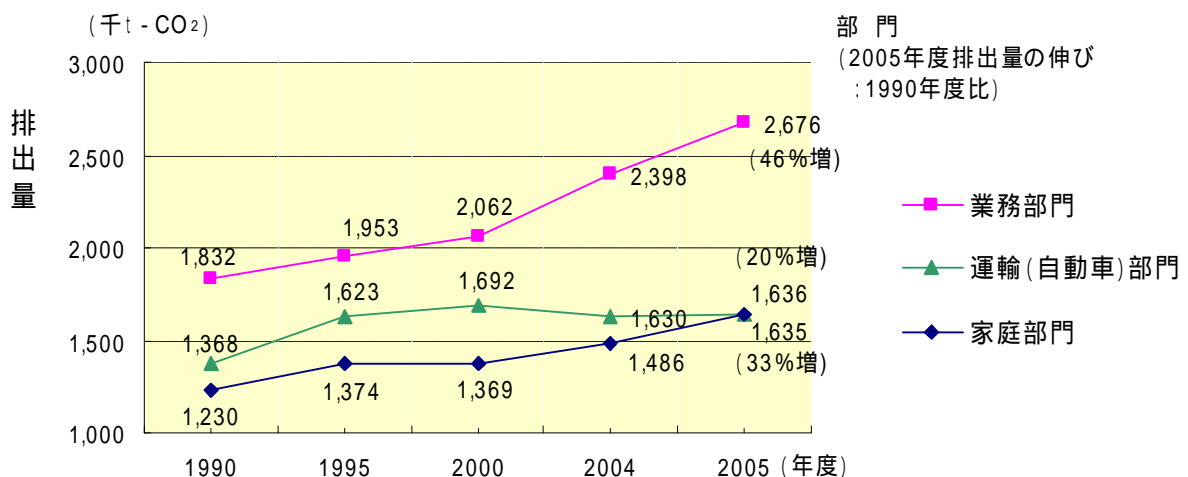
## (8) 加速化する気候変動

- 1999年（平成11年）、2003年（平成15年）の集中豪雨被害や国内最高気温の更新、台風の大規模化など、気候変動が身近に感じられており、今後もさらに変わっていくことが予想されています。

### 地球温暖化問題

- 本市では温室効果ガス総排出量のほとんどを占める二酸化炭素の排出量が全国を上回る伸び率2.3倍（全国：+13.1%、福岡市：+30.1%（1990年比の2005年値））で増加しています。
- 商業中心の産業構造を持つ福岡市は、製造業などの産業部門の占める割合が小さいため、二酸化炭素の部門別の排出割合が、家庭部門、業務部門、運輸（自動車）部門で全体の7割以上を占めています。特に、業務部門（事業所、店舗、学校等）や家庭部門からの排出量の増加が近年伸びており、温室効果ガスの排出量を削減していくためには、市民や事業者、行政が一体となった実効性の高い施策の展開が求められています。

本市における部門別の二酸化炭素排出量の推移



[資料：福岡市環境局資料]

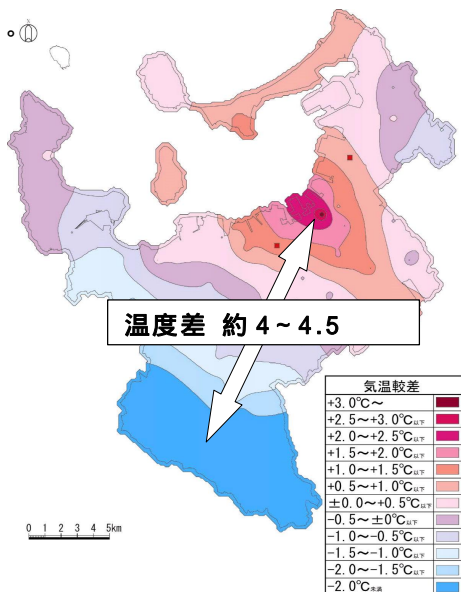
### 都心部の温暖化問題（ヒートアイランド現象）

- 本市では都心部で夏季に郊外と約4℃の温度差が観測され、熱帯夜の日数も1970年代（1970～1979年の平均値21.3日）と最近の10年間（1995～2004年の平均値37.2日）の比較で約16日増加しているなど、都心部のヒートアイランド現象が顕在化しています。

ヒートアイランド現象は、都市の産業活動や社会活動にともなう人工排熱や地表面・建物の蓄熱放射などが主な成因と考えられています。

熱帯夜：最低気温 25 以上の日

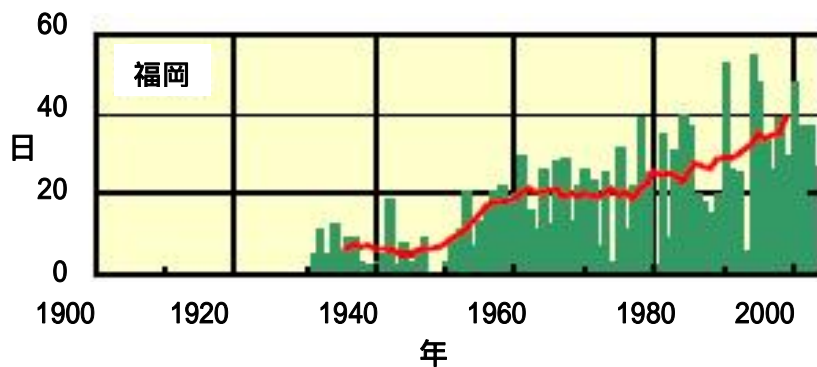
### 福岡市の夏季ヒートアイランド現象発現時の気温分布



[資料：福岡市環境局資料（平成 15 年 9 月 5 日午前 5 時）]

### 大都市における熱帯夜の年間日数の経年変化 福岡（1931 年以降）

棒グラフが各年値、折線グラフは 11 年移動平均値。

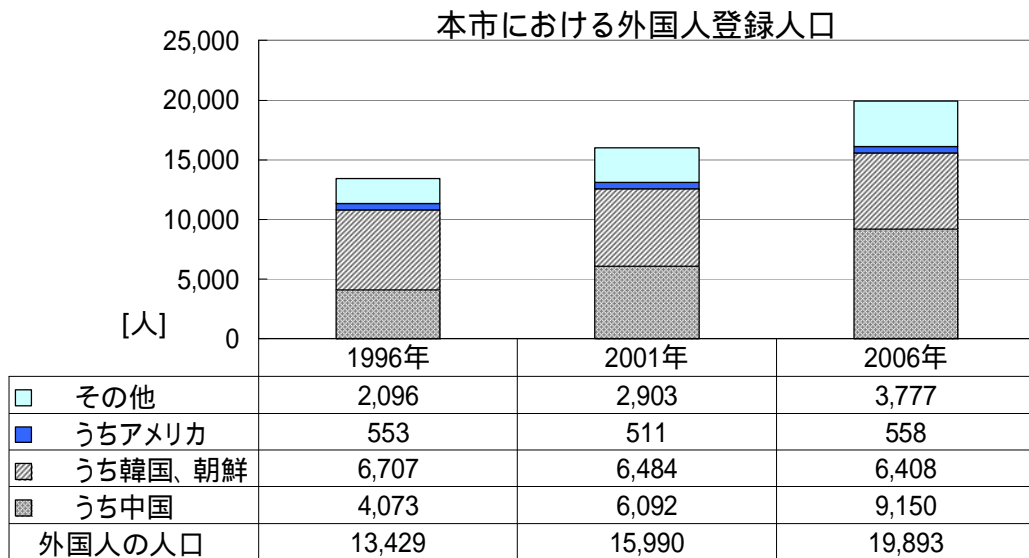
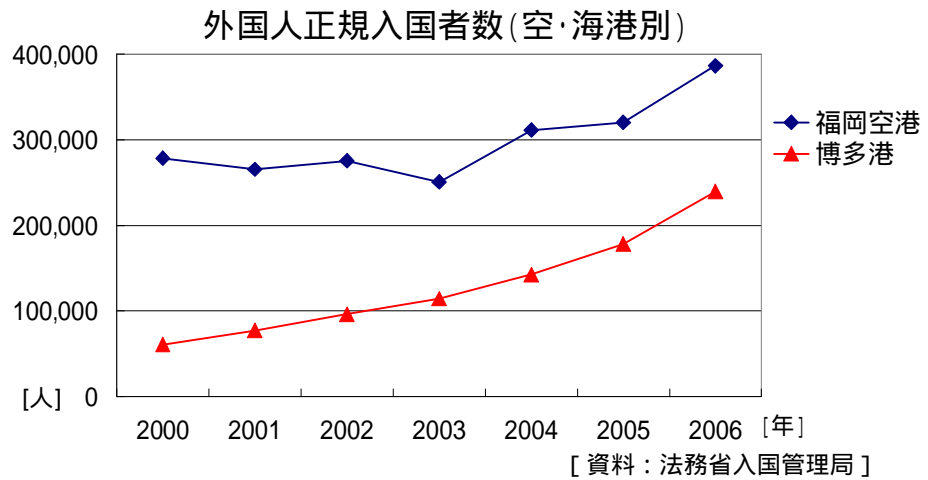


[資料：異常気象レポート 2005（気象庁 平成 17 年）]

- また、近年、東アジアの経済発展に伴う環境の悪化が見られ、地球環境に大きな負荷を与えることが懸念されています。本市での酸性雨や飛来する黄砂に影響を及ぼしており、福岡市を含む広範囲で発生した光化学スモッグ（高濃度の光化学オキシダント）の原因として、国を超えた移流等の可能性が指摘されていることから、環境分野における国際的な取り組みが重要となっています。

## （ 9 ）九州・アジアとの交流新時代の到来

- 交流都市を支える重要なブロック圏である九州各県の人口は、すでに福岡県を除いて減少が始まっています。国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口では、九州の人口は、2005 年（平成 17 年）の 1,335 万人が 2015 年（平成 27 年）には約 1,286 万人（約 50 万人減）になり、さらに 2030 年には 1,157 万人（約 180 万人減）になると予測されているため、今後は、交流人口を増加させていくことが必要です。
- 東アジア各国の所得の向上や、地域内の水平分業の進展により、人とモノの動きの活発化に加え、東アジアの人々の福岡、九州への来訪や市内居住も増加し、生活圏としての九州・アジア新時代が始まっています。なお、本市における外国人登録人口は 2006 年（平成 18 年）に約 2 万人となり、10 年間で約 1.5 倍に増加しています。



- ・ 現在、博多港や福岡空港から、国内と同様に上海、台北、ソウル、釜山など東アジアへの日帰り可能な圏域が広がり、物の移動も航空貨物や RORO 船により、短時間での移動が可能となっています。
- ・ また、2011年(平成23年)には、九州新幹線の全線開業により、熊本市35分、鹿児島市80分など、移動の時間距離が大幅に短縮され、九州、福岡の経済に大きな変化をもたらすことが予想されます。
- ・ 日本全体が東アジアの活力を取り込む施策を強めてきている中で、今後の福岡の都市づくりは、本市がこれまで築いてきたアジアとの関係を深め、広げながら、人、物、情報、投資の流動拡大に合わせて、東アジアや九州との交通の利便性を確保しながら、アジアの人々も暮らしやすく使いやすい、九州、アジアの新時代に適応するまちづくりを進めていくことが大切です。
- ・ さらに、九州全体でも東アジアとの交流が進んでおり、今後は都市圏や九州の各自治体との連携も進めながら、都市圏及び九州全体の発展を目指すことが重要となっています。

## 2. 政策推進プランの概要

### (1) 策定の目的

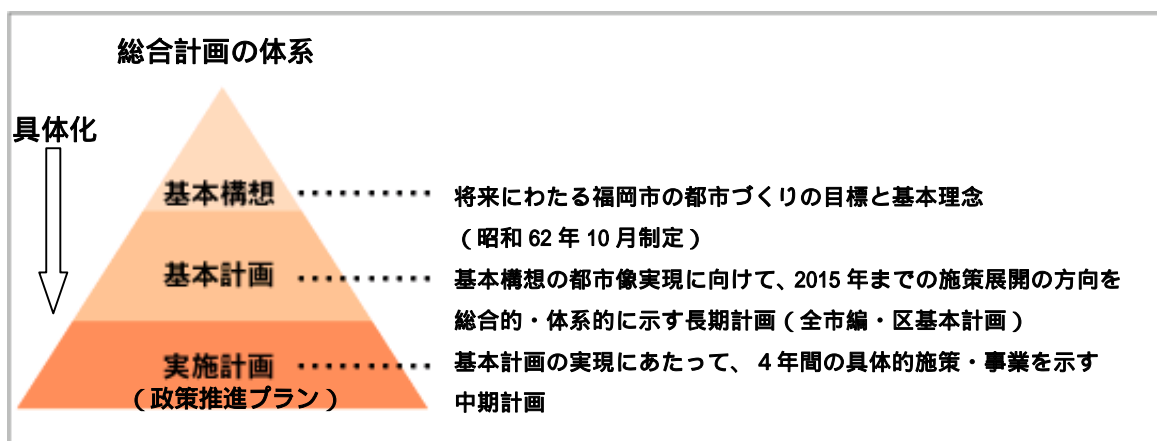
新・基本計画の策定から5年、第一次実施計画の策定から4年が経過し、社会環境や市民ニーズも大きく変化しているため、今後の新たな取り組みの視点とまちづくりの目標像を明らかにした政策推進プランを策定するものです。

本プランは、2003年3月に策定した新・基本計画（目標年次：2015年 / 基本方向：自由かつ誇りで輝く自治都市・福岡をめざして～九州、そしてアジアの中で～）の18の政策目標の実現に向けて、これまで4年間の振り返りと社会環境の変化を踏まえ、これからの4年間に取り組む具体的な施策・事業を示すものです。

財政リニューアルプラン、行政改革プランと連動することにより、厳しい財政状況の中で、行財政改革の一層の強化や施策・事業の重点化や見直しによって、所要の財源を確保しながら、中期財政見通しを踏まえた「選択と集中」を進め、市民生活の充実と都市活力の創出のために真に必要な施策・事業の推進を図ります。

### (計画期間)

2008（H20）年度から2011（H23）年度までの4年間





## (2) 取り組みの視点

長年、整備を進めてきた基盤などの今ある資源や魅力を活かしながら、市民、地域、企業などが力を発揮できるまちづくりが重要です。施策を進める上での基本的な考え方として、取り組みの視点を掲げます。

今後のまちづくりにおける取り組みの視点

～福岡のあらゆる資源や魅力を最大限活かし、多様な主体と共働でまちづくりを進める～

### 「人材」「歴史」「自然」など、福岡の資源・魅力を最大限活用する

- ・蓄積された社会資本や様々な都市機能、自然や文化、歴史資産、さらには集積した民間資本や多彩な人材などの今ある資源・魅力を今一度見つめ直し、資源・魅力を最大限に活用します。
- ・既存ストックの有効活用の観点から、空き教室などの施設の多目的利用を進めます。
- ・アセットマネジメントを早急に導入し計画的な補修管理による公共施設の長寿命化を図ります。

### まちづくりに市民、地域、NPO、企業、大学などの力が発揮できる施策を進める

- ・民間の知恵や活力が最大限発揮できるよう、民間の力を誘導する環境整備に努めます。
- ・防災・防犯、子育て、健康・福祉、環境など暮らしに身近な課題に対応するため、地域の絆を強め、地域の拠点である区役所のサポート機能を高め、様々な主体と共働しながら施策を進めます。
- ・身近な公園、道路などの公共空間を子どもに見立て、運営を希望する市民が里親となる仕組み（アダプト制度）など、地域の力を活用した管理・運営手法の導入・拡大を進め、市民参画の拡大を図ります。

### モデル的・実験的な手法も交え、スピード感をもって実践することを基本姿勢とする

- ・現場の課題認識に沿った実践をモデル的、実験的手法も交え、様々な主体と共働しながら創意工夫のもとに進めます。
- ・施策の検討から意思決定までのプロセスを迅速化するとともに、情報受発信能力を高め、庁内外論議を活発化します。



### (3) まちづくりの目標像(3つの柱)と特に力をいれていく分野・施策

#### 《1》まちづくりの目標像(3つの柱)

- ・ 市民生活の充実と都市活力の創出を図っていくため、今後4年間のまちづくりの目標像(3つの柱)を掲げます。

##### < 1 > 笑顔があふれ、明るく元気に子どもが育つ街・福岡

~子どもから高齢者まで誰もが安全で安心して、夢を持って暮らせるまちづくりに取り組む~

##### < 2 > 市民も企業も皆が環境を大切にする健やかな街・福岡

~まちづくりのあらゆる側面に環境を大切にする理念を取り入れていく~

##### < 3 > シティプロモーションで創る九州・アジア新時代の交流拠点都市・福岡

~多様性や交流を大切にしながら、新たな活力の創造に挑戦する~

#### 《2》特に力をいれていく分野・施策

- ・ まちづくりの目標像(3つの柱)を実現するため、今後4年間に特に力をいれていく分野・施策(10項目)を掲げます。

##### < 1 > 笑顔があふれ、明るく元気に子どもが育つ街・福岡

~子どもから高齢者まで誰もが安全で安心して、夢を持って暮らせるまちづくりに取り組む~

#### 教育力の向上

子どもたちに基礎・基本的な学力を定着させるとともに、個性や創造性を伸ばし、主体的に判断し表現する力、行動する力を育む取り組みを進めます。

子どもの多様な個性に対応できる教育環境づくりや、学校の教育機能の充実を図ります。

#### 自立し、たくましく生きる力の向上

子どもが基本的な生活習慣や社会ルールを身につけ自立できる市民に成長するために、遊びやスポーツ活動、自然体験、文化・芸術活動、歴史や伝統、科学などに触れる体験やボランティア活動など、様々な体験・活動ができる場や機会の提供に、家庭、学校、地域、そして行政が相互に連携・協力しながら取り組みます。

また、地域ぐるみで子どもが生き生きと育つ環境をつくることが重要です。乳幼児親子が自由に集える場の充実や子どもの健全育成、安全を守る取り組みをさらに進めるとともに、地域で活躍する人材や団体の育成・支援や、様々な情報の提供・交換など子どもを育むネットワークの強化を図ります。

### **子どもと子育てを大切にすまちづくり**

母親が安心して出産し、子どもが健やかに生まれ育つために、母子保健や医療の充実に努めるとともに、育児不安の解消を図る取り組みや保育サービスをはじめとする子育てと仕事の両立支援など、安心して生み育てられる環境づくりを進めます。

児童虐待、いじめ・不登校などの問題解消を進めるとともに、子どもや保護者が抱える様々な悩みへの相談支援、援助を必要とする子どもの自立支援など、すべての子どもの人権を守り、健やかな成長を確保する施策の充実に努めます。

### **仕事と生活のバランスのとれたライフスタイルの形成（ワークライフバランスの推進）**

従来の働き方が見直され、一人ひとりが仕事、家庭、地域活動、ボランティア活動など、多様な選択のもと、バランスのとれた生き方ができる社会を目指します。

子育てにおける親や地域の役割を果たすためには、仕事と生活の調和を図り、家族がともに過ごす時間をもてるよう企業と連携しながら「ワークライフバランス」を推進し、誰もが子どもの健やかな成長に積極的に関わる社会づくりを進めます。

### **健康福祉のまちづくり**

今後10年間で大幅に高齢者が増加することが見込まれています。国の制度変更もあり、介護、医療などへの対応が必要です。そのために、市民一人ひとりが必要な保健福祉サービスを自ら選択し、安心して利用できるような、利用者本位のサービス体制の充実を図ります。

また、すべての市民が、住み慣れた家庭や地域で安心して暮らしていくためには、健康であることが重要です。健康づくりに対する市民の意識向上に向けた取り組みを行うとともに、地域における健康づくり、介護予防を継続的、日常的に実施するための環境整備を行います。

高齢者の社会参加を進めるため、就業を通じた生きがいづくりや職域拡大の推進を図るとともに、自主・自発的な社会貢献活動や地域活動のための場の創設や情報提供を行います。

障がい者が、地域で安心して生活し、社会参加できるよう環境の整備を図るとともに、自立促進のため、その意欲・能力に応じて就労できるよう支援します。

## 安全で快適なまちづくり

水害や地震などの自然災害への対応を確実に実施するとともに、大規模な事故、国際テロなど、複雑化・多様化する危機事案には、迅速かつ的確に対処することが重要です。危機管理体制の強化や、警固断層を震源とする地震への新しい被害想定に対応した震災対策の充実を図ります。

災害に対する地域コミュニティの取り組み強化、水・食料・揺れへの対策など、市民自らの備えを促すなど、行政・市民・企業の積極的な情報共有を進めます。

また、市民生活に密着した生活道路の整備は、地域と共働して進めるとともに、事業効果の高い幹線道路の整備は、重点化を図りながら進めます。

政令市の中でも特に高い街頭犯罪への対応を図ります。自主的な地域安全活動への支援など、地域防犯力を高めます。

< 2 > 市民も企業も皆が環境を大切にす健やかな街・福岡  
~まちづくりのあらゆる側面に環境を大切にす理念を取り入れていく~

## コンパクトな環境共生都市づくり

都心部回帰等により毎年1万人を超える人口が増加しており、特にマンションが受け皿となり、街は次第に高密度化していますが、環境負荷をできるだけ小さくするまちづくりが必要です。

環境に優しい公共交通機関を最大限活用していく施策を進め、交通利便性の高い都心部をはじめとする既成市街地や現在整備中の香椎副都心、アイランドシティなどに住宅、業務、商業などを誘導することで、コンパクトなまちづくりを行います。

気候変動、ヒートアイランド現象への対応など、環境負荷の少ないライフスタイルへの転換や省エネルギーのまちづくりを進めるとともに、地域ぐるみで緑化を推進します。

また、農・林・漁業と連携し、海や河川、森林、農地、溜め池などの水と緑の保全を図るとともに、そこに息づく生き物も大切にす環境と共生するまちづくりを進めます。

## 風格ある美しい都市づくり

博多湾や志賀島、油山や脊振山系など変化に富んだ、恵まれた自然を大切にするとともに、海、川の水辺の緑化、都心部や整備の進む主要幹線の緑化推進等、緑の環境効果や修景効果に着目し、市民、企業と共働で緑豊かな都市づくりに取り組みます。

これまで蓄積してきた景観形成のノウハウを活かすとともに、福岡に集う様々なNPOや建築・デザイン・アートの人材と共働し、歴史や界隈性を活かした福岡らしい、風格ある美しいまちづくりを行います。

**< 3 > シティプロモーションで創る九州・アジア新時代の交流拠点都市・福岡  
～多様性や交流を大切にしながら、新たな活力の創造に挑戦する～**

**積極的なシティプロモーションによる活性化**

整備が進んでいる交通網・水資源、集積する大学・情報関連産業、アイランドシティ、また、九大学研都市、香椎副都心、博多駅開発等の主要プロジェクト、さらに20数年のアジア施策の積み重ねなど、本市の強み、資源を最大限活用し、多様な活性化方策と連携した積極的なシティプロモーションを推進します。

市施策・プロジェクトの情報発信や集客のための営業、企業誘致、民間資本の誘導などを通じて、シティプロモーションを徹底し、潜在力を最大限、顕在化させます。シティプロモーションは、本市の活かすべき強み・資源・魅力を発掘・整理し、施策の実践・行動を行うとともに、企業や観光客の誘致活動、さらに、民間企業との共働によって本市に新しい活力をもたらします。

**シティプロモーションとは**

本市が持つ自然や歴史・文化、また、近年本市が創り上げてきた都市基盤・都市機能やまちの魅力について、外部に効果的な宣伝・営業活動をすることで、人材、企業、投資、情報などの価値をまちに取り込み、戦略的に都市活力の向上を図っていく活動のことです。

**九州・アジア新時代の交流拠点都市づくり**

日本全体がアジアの活力を取り込む施策を強め、都市間競争が激化する中、本市の産業政策は、国際集客文化都市、国際物流拠点の形成、IT等知識創造産業の振興、ベンチャー企業・創業支援、中小企業支援などに重点的に取り組めます。

都心部や、現在整備中のアイランドシティ、九大学研都市、香椎副都心など、都市機能の誘導地域に業務・商業など民間資本を重点的に誘導します。

アジア美術館や福岡アジア文化賞など、20年続くアジアとの文化交流のネットワークの活用、国内外での積極的な情報発信、国際ネットワークを有する福岡空港・博多港、都市高速道路等の機能強化によって「アジアの交流拠点都市」を第2段階にステップアップさせ、さらに九州との連携・共働により「九州・アジア新時代の交流拠点都市」を目指します。

国際都市を目指すには、日本・福岡の固有の歴史・文化を大切に、アピールすることが不可欠であり、祭りや遺跡だけでなく、博多の食文化、博多人形・博多織、神社・仏閣、界限性のある商店街、海の民の歴史などを大切に、アピールしていく取り組みを進めます。

### 《3》福岡の活かすべき資源・魅力

#### 充実してきた都市基盤

	【平成8年度末】	【平成18年度末】	
・都市計画道路の整備率	48.2%	70.1%	
・都市高速道路の営業キロ	20.2km	48.7km	
・地下鉄の営業キロ	17.8km	29.8km	
・施設能力【水道】(m3/日)	704,800	764,500	
・港湾施設	水深-7.5m以上の岸壁 ガントリークレーン 蔵置能力	39パー 4基 11,535TEU	44パー 7基 19,284TEU
・下水道普及率	97.9%	99.4%	
・都市公園(公園緑地)	1,371園	1,558園 など	

#### 生活

##### 進む住民自治、 活発化するNPO

- ・各小学校区で設立が進む自治協議会(142/149校区)
- ・小学校区毎に公民館144館を設置(H19.10月時点)
- ・本市に事務所を置くNPO法人506団体(H18年度末) など

##### 身近で豊かな自然環境

- ・博多湾、玄界灘、脊振・三郡山系、油山
- ・和白干潟、今津干潟
- ・室見川、那珂川、多々良川、野多目大池
- ・飛来する渡り鳥、潮干狩り など

##### 近距離公共交通の充実

- ・地下鉄1～3号線、西鉄大牟田線、西鉄貝塚線、バス、JR鹿児島本線 など

##### 産地市場で日本一の取り扱い金額を誇る 「福岡鮮魚市場」と盛んな農業・漁業

- ・日本一の水揚げ金額(H16)
- ・都市型農業が盛ん(ばら、トルコキキョウ、春菊などは県内1位の生産額)
- ・博多湾、玄界灘の豊富な魚介類の提供 など

##### 個性的商店街

- ・香椎、美野島、川端、銀天町、新天町、柳橋、唐人町、西新など

#### 産業

##### IT関連産業の集積

- ・情報通信産業の従業者数の増加  
(45,447人(H18年)、5年間の伸び率24.2%)
- ・システムLSI設計関連企業18社(H12) 71社(H18)
- ・SRP地区への企業進出 130社 7,000人
- ・ゲーム関連企業5社(H9) 14社(H18) など

##### 集積する官公庁、 企業の九州支店

- ・九州地方整備局、九州運輸局、福岡財務支局、日銀福岡支店など
- ・九州における統括支店 など

##### 九州へ進出が進む製造業

- ・自動車関連産業の集積
- ・半導体産業の集積
- ・液晶関連産業 など

##### 九州とアジア・世界をつなぐ博多港、 アジア各地に直行する福岡空港

- <福岡空港>
- ・都心(天神)から地下鉄で約10分の福岡空港
- ・国内線21都市、国際線17都市(H19.10月現在)
- <博多港>
- ・九州一の国際海上コンテナ取扱量(約71万TEU)
- ・日本一速い国際海上輸送(釜山約5.5時間、上海約26.5時間)
- ・上海とのRORO船など、月間38航路202便のコンテナ航路網
- ・日本一の外国航路船舶乗降人員(約75万人) など

##### 豊富で優秀な女性、若者

- ・従業者総数74万人のうち、女性32万人(H16)
- ・女性の労働力率(H2:47.5 H17:51.6%)
- ・大学生・専門学校生 約11万人(H19年) など

##### コンベンション施設

- ・福岡国際会議場、アクロス福岡、福岡サンパレス、福岡国際センター、マリンメッセなど

##### 大学、専門学校の集積

- ・留学生2,327人(H18)
- ・約8万人の大学生(人口当たり学生数 政令市5位)、約3万人の専門学校生(H19) など

### 東アジアと日本をつなぐ地理的優位性

福岡から 釜山 約200Km(広島・宮崎まで約210Km)  
ソウル 約540Km(大阪約480Km、  
名古屋約630Km)  
上海 約870Km(東京約880Km) など

### 放送・通信産業の集積

・NHK、民放5社、NTT西日本、日韓光コリドー  
など

### 福岡県の産業政策

・福岡県産業・科学技術振興財団(ふくおかアイスト)  
・福岡システムLSI総合開発センター  
・知的クラスター  
・ベンチャーサポートセンター  
・シリコンシーベルト福岡  
・水素エネルギー戦略 など

## 文化・集客

### 利便性の高い九州、アジアとのアクセス

・海外17都市320便/週の福岡空港、  
釜山との高速船・フェリーが毎日就航する博多港  
・九州自動車道に直結した都市高速道路  
・九州新幹線、九州に広がる高速バスネットワーク  
・アジアとの日帰り可能な交流機会人口7,000万  
・日本一の外国航路船舶乗降人員数(約75万人)  
・外国公館・経済関係機関11機関(政令市でも有数の  
立地状況)のうち8機関はアジア関連 など

### アジアとの交流の歴史・文化

・金印、鴻臚館、板付遺跡  
・5つの国宝を含む指定文化財約9千点など  
・安曇族、五ヶ浦廻船など海の民の歴史・760有余年続く祭  
り「博多祇園山笠」、「博多どんたく」  
・博多織(760年以上)、博多人形(400年以上)  
・国内文化(御茶、饅頭、うどん、蕎麦)発祥の  
神社・仏閣、「博多町家」ふるさと館 など

### 魅力ある文化施設

・福岡市美術館、福岡アジア美術館、  
福岡市博物館、  
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ、  
福岡市文学館、パピオビールーム(福岡市千代音楽・  
演劇練習場)、アクロス福岡 など

### 都市型集客施設の集積、 多様で豊かな食文化

・コンパクトな都心(1辺約3Kmの四角形エリア)  
・福岡ドーム、福岡タワー、博多座、アクロス福岡、  
福岡シティ劇場、キャナルシティ博多、  
百貨店、天神、大名、百道  
・屋台、新鮮な魚、博多ラーメン、もつ鍋、水炊き など

### 風光明媚な自然環境、 ウォーターフロント

・玄海国定公園、脊振雷山県立自然公園、博多湾、  
志賀島～海の中道、能古島、玄界島などの島々、生  
の松原、大原、西浦など自然海岸  
・小戸ヨットハーバー、マリニア、ベイサイドプレイス、  
シーサイドももち海浜公園 など

### 多彩なスポーツイベント

・ホークス、アビスパ福岡、全日本柔道、  
金鷲旗・玉竜旗、九州一周駅伝、福岡国際マ  
ラソン、大相撲九州場所、シティマラソン、市  
民総合スポーツ大会 など

### 個性的な文化イベント

・アジアフォーカス・福岡国際映画祭、福岡アジ  
ア文化賞、アジア太平洋フェスティバル、ミュー  
ジックシティ天神 など

### 文化芸術に関わる 多様な人材輩出

・国内外で活躍するミュージシャン  
(チューリップ、海援隊、甲斐バンド、チャゲ&飛鳥、椎名  
林檎、浜崎あゆみ、MISIA、氷川きよし など)  
・演劇人、アーティストなどを輩出

### 海洋レジャーのポイント

・ヨット、クルーザー、  
ダイビング、ウインドサーフィン  
・海釣り公園 など

(4) 政策目標ごとの施策体系

新・基本計画の18の政策目標ごとに、施策の体系を整理しています。  
 ( 主要施策のもとに具体的な事業を記載しますが、今後、原案に向けて整理します。)

**政策目標1：子どもがたくましく生きる力、夢や希望をもって育つまちとなる**

(施策体系)

施策の基本的方向と主要な施策	
(1)子どもの権利を尊重する社会づくり	子どもに関する相談体制の充実・強化 児童虐待の防止対策等の充実 いじめ・不登校対策の推進
(2)地域における子育ての支援と健全育成の環境づくり	地域で子どもを見守り育むしくみや環境づくり 子どもの遊び・活動の場や機会づくり
(3)21世紀を生きる子どもを健やかに育む学校教育の推進	豊かな心や創造性を育む教育の推進 教育環境の整備 地域に開かれた学校づくり 障がい児教育の充実
(4)安心して生み育てられる環境づくり	次世代育成支援の推進(ワーク・ライフ・バランスの推進) 多様な保育サービスの充実 育児不安の軽減・解消 小児医療の充実 ひとり親家庭の支援

**政策目標2：個性と創造性に富んだ多彩な人材が育つまちとなる**

(施策体系)

施策の基本的方向と主要な施策	
(1)大学の集積を活かした人材育成とまちづくりの推進	大学の都心展開の支援(社会人の能力開発の促進) 産学連携の推進 市民・地域に開かれた大学づくりの促進
(2)市民生活を豊かにする生涯学習の推進	生涯学習の推進 学習施設の整備・充実
(3)文化芸術を活かしたまちづくり(文化芸術の振興)	市民の文化活動の促進 文化芸術を活かしたまちづくり 福岡の歴史・伝統・文化の承継と活用
(4)市民生活を活性化するスポーツ・レクリエーションの振興	市民のスポーツ活動の促進 スポーツを活かしたまちづくり 障がい者のスポーツ・レクリエーション活動の充実



**政策目標 3 : 地域コミュニティを活性化し、住民自治・地域自治を推進する**

( 施策体系 )

施策の基本的方向と主要な施策	
(1) 地域コミュニティ活動の活性化と住民主体の地域づくりの支援	地域コミュニティの活性化
	住民の主体的なまちづくり活動への支援
	地域人材の発掘・活用
(2) NPO活動の促進	NPO・ボランティア活動の支援・促進
(3) 市民参画・共働の推進	市民参画・共働を進める環境づくり
	市政への市民参画、共働事業の推進
(4) 市民が集い、活動できる場の確保	活動の場の確保
	既存施設の活用
(5) 市民に身近な区役所の機能強化	区の魅力づくり

**政策目標 4 : 支え合い助け合い、生き生きと暮らせる健康・福祉のまちとなる**

( 施策体系 )

施策の基本的方向と主要な施策	
(1) 支え合い助け合いのしくみづくりと利用者本位の保健福祉サービスの提供	地域の保健福祉活動の推進
	生活の安定の確保
(2) ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり	ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり
(3) こころとからだの健康づくり	市民の主体的な健康づくりの支援
	こころの健康づくり
	医療体制の充実
	難病患者の地域生活の支援
(4) 高齢者の健康と福祉の向上	介護予防の充実
	要介護高齢者の支援体制の充実
	高齢者(アクティブ・シニア)の活躍の場づくり
(5) 障がい者の自立と社会参加の促進	障がい児療育の充実
	障がい者就労支援の充実
	障がい者の地域生活支援の充実
	精神障がい者の社会復帰の推進

## 政策目標 5 : 災害に強く、安全で安心して暮らせる都市となる

### (施策体系)

施策の基本的方向と主要な施策	
(1) 防災・危機管理体制の強化	危機管理対応能力の向上 地域の自主防災力の強化
(2) 災害に強い都市基盤づくり	震災対策の推進(公共施設の耐震化、民間建築物の耐震化促進等) 総合治水対策の推進
(3) 消防・救急医療体制の充実	消防・救急体制の充実・強化
(4) 犯罪のない住みよいまちづくり	市民の防犯意識の向上と地域の防犯力の強化 犯罪が発生しにくい環境づくり 治安体制の充実・強化
(5) 生活衛生の向上と豊かな消費生活の実現	食の安全確保の推進 衛生的な暮らしの推進 豊かな消費生活の実現
(6) 都市生活者のルールを守る市民のまちづくり	都市生活者のルールを守る市民運動の展開 違反広告物対策の積極的な推進 ごみの不法投棄の防止 交通安全対策の効果的な推進 放置自転車対策の積極的な推進

## 政策目標 6 : 人権を尊重し、人の多様性を認め合うまちとなる

### (施策体系)

施策の基本的方向と主要な施策	
(1) 全ての人が尊重される社会づくり	人権教育、人権啓発の推進 同和対策の推進
(2) 男女共同参画社会の確立	男女平等をめぐる意識啓発の推進 あらゆる分野における男女共同参画の促進 女性への暴力をなくすための取り組み

## 政策目標7：「楽・住・職」の融合した美しい都市となる

### (施策体系)

施策の基本的方向と主要な施策	
(1)	計画的市街地整備による活気のあるまちづくり
	都心部の機能強化と魅力の増進、都心居住の誘導
	東部地域におけるまちづくりと交通ネットワークの形成
	西部地域のまちづくり
	九州大学移転跡地のまちづくり
	地下鉄3号線沿線のまちづくり
	地域主体・民間主導による市街地整備の推進
(2)	海と歴史を活かした、美しく個性のあるまちづくりの推進
	諸制度を活用した景観形成
(3)	住民によるまちづくりの推進
	住民の主体的なまちづくり活動への支援
	景観阻害要因に対する市民参画事業の推進

## 政策目標8：水・交通、住環境などの基盤を整備し、快適な生活環境を確保する

### (施策体系)

施策の基本的方向と主要な施策	
(1)	都市基盤整備における基本的な視点
	社会資本の計画的維持更新
(2)	人と環境に優しい総合交通体系の推進
	公共交通ネットワークの強化
	総合的交通施策の推進
	放射環状型道路ネットワークの構築
	安全で快適な生活道路の形成
	自転車の活用促進
	誰もが利用しやすい交通施設づくり
(3)	安全で良質な水の安定供給
	水の安定供給
	節水型都市づくり
	安全で良質な水道水の供給
	水源地域及び流域との連携強化
(4)	清らかな水環境の創造
	博多湾富栄養化対策
	合流式下水道の改善
(5)	良質な住宅・住環境の形成
	良好な住環境整備の推進と誘導
	市民との共働による安全で快適な道づくり
	都心居住博多部振興プランの推進
	高齢者、障がい者向け住宅の供給
	市営住宅ストックの有効活用

**政策目標 9 : 博多湾や脊振山系などの自然を大切に、緑彩る都市となる**

(施策体系)

施策の基本的方向と主要な施策	
(1)	豊かな自然環境の保全と生態系ネットワークの形成
	博多湾や干潟の保全・再生
	自然環境への配慮の推進
	緑地、農地等の保全
(2)	緑化の推進と都市公園・公共緑地の整備
	都市公園などの整備
	緑化の推進
(3)	市民との共働による自然とふれあう水と緑のまちづくり
	自然環境保全市民活動の支援
	市民参画による緑化事業や公園づくりの充実

**政策目標 10 : ライフスタイルを転換し、環境と共生する都市となる**

(施策体系)

施策の基本的方向と主要な施策	
(1)	地球温暖化対策の推進と循環型社会の構築
	省エネルギー行動の支援、新エネルギーの導入推進・促進
	都心部のヒートアイランド対策
	公共交通機関や自転車の利用促進
	循環型システムの構築
	ごみ処理施設の維持・整備
(2)	都市生活型環境問題の緩和・解消
	自動車交通公害の防止
	水質保全対策の推進
	有害化学物質に関する調査研究と情報提供の充実
(3)	環境協力の推進
	都市圏等での連携等の推進
	廃棄物処理分野における技術協力
(4)	市民の主体的な環境問題への取り組みの支援
	環境情報の発信と人材育成
	市民・企業などの環境行動の実践支援

**政策目標 1 1 : 福岡の魅力と環境を支える農林水産業を振興する**

(施策体系)

施策の基本的方向と主要な施策	
(1) 都市との近接性を活かした農林水産業の振興	生産者と消費者との顔の見える関係づくり
	次代を担う農業構造の確立による農業の振興
	農地の保全・確保
	森林の多面的機能の発揮を担う林業の振興
	豊かな海を生かした水産業の振興
	就業者の確保
(2) 農林水産業の多面的機能の発揮	市民に開かれた農林水産業の確立
	森林、海域等の保全促進
	良好な都市環境の形成
(3) 農山漁村地域の振興	農山漁村地域の活性化
	離島の振興
(4) 中央卸売市場の機能強化	中央卸売市場の機能強化

**政策目標 1 2 : 福岡の知性と感性を活かし、知識創造都市となる**

(施策体系)

施策の基本的方向と主要な施策	
(1) 知識を創造する「大学のまち福岡」の形成	九州大学学術研究都市構想の推進
	大学のまちづくり
(2) 科学技術の振興と産学官連携の推進	産学官連携の推進
(3) 福岡にふさわしい新産業の振興	情報関連産業の集積促進
	デジタルコンテンツ関連産業の振興
(4) ITの活用による市民生活及び都市活力の向上	電子市役所の構築

**政策目標 1 3 : 起業・創業や企業立地を促進し、多様な雇用の場を創造する**

(施策体系)

施策の基本的方向と主要な施策	
(1) 地場中小企業の競争力強化・経営基盤の充実	金融支援や相談業務の充実
	経営革新や技術力向上のための支援
	商店街活性化事業
	生活関連産業の振興
	伝統産業の振興
	技能・技術の伝承
(2) 起業・創業支援の充実	創業支援施策の充実
(3) 企業立地施策の充実	企業立地の促進

**政策目標 1 4 : おもてなしの心に満ちた国際集客文化都市となる  
～ビクターズ・インダストリー（集客産業）の振興～**

(施策体系)

施策の基本的方向と主要な施策	
(1) 魅力(福岡ブランド)づくりと情報発信	都心部の機能強化と魅力づくり
	市民・事業者・行政の共働による魅力づくり
	エンターテインメント・文化芸術による福岡の元気の創造
	福岡の魅力発信、営業活動の推進
	来福者が安心して過ごせる環境づくり
(2) コンベンション誘致・支援の推進	コンベンション誘致・支援体制の強化
(3) モラル・マナー、ホスピタリティ向上の推進	安全安心のまちづくり
	モラル・マナー、ホスピタリティ(おもてなしの心)の向上

**政策目標 15：協力と競争を通じてアジアの交流拠点都市をめざす**

(施策体系)

施策の基本的方向と主要な施策	
(1) 多文化共生の地球市民の都市づくり	外国人にとって住みやすく活動しやすいまちづくり
(2) アジアにおける学術・文化・人材育成の拠点都市づくり	アジア施策の深化 留学生の支援充実
(3) アジア諸問題に対する国際貢献	国際機関等との連携強化
(4) 東アジアのビジネス・物流都市の構築	北東アジアの拠点都市との関係強化 東アジアを視野に活動する国内外企業の集積促進

**政策目標 16：福岡・九州とアジア・世界を結ぶゲートウェイを形成する**

(施策体系)

施策の基本的方向と主要な施策	
(1) アジアのゲートウェイとしての空港機能の強化と将来対応方策の検討	福岡空港の機能強化 福岡空港の周辺環境の向上
(2) 国際競争力のある博多港づくり	先進的な物流拠点の形成 航路網の充実と集荷活動の推進 中央ふ頭におけるアジアのゲートウェイ機能強化



**政策目標 17：先進的モデル都市・アイランドシティを創造する**

〔施策体系〕

施策の基本的方向と主要な施策	
(1)	アイランドシティのまちづくりの基本的考え方
(2)	高質な居住環境の形成
	快適に暮らせる住環境の形成
	先進的な教育環境の導入
(3)	新しい産業集積拠点の形成
	先導的産業集積等の推進
(4)	先進的な物流空間の創出
	高機能・高効率な港湾施設の整備及び陸上交通アクセスの充実
(5)	環境共生の先進的な取り組みの実践
	新エネルギー・省エネルギー・省資源システムの導入
	野鳥公園、エコパークゾーンの整備

**政策目標 18：福岡都市圏や九州各地域との広域的連携を強化する**

〔施策体系〕

施策の基本的方向と主要な施策	
(1)	福岡都市圏行政の推進
	安全で快適な生活圏の形成
(2)	周辺圏域との連携強化
	水源地域等との交流事業
(3)	第4の大都市圏の形成(福北大都市圏の形成)
	福北連携
(4)	九州・山口地域との連携
	フォア・ザ・九州

## (5) プランの進行管理

プランの推進にあたっては、新・基本計画（全市編、区基本計画）の成果指標を活かしながら進捗状況を定期的に把握し、その結果を公表します。

